

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校

- 1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
- 2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
- 3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

## 2 中期的目標

- 1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立
  - (1) 将来構想の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化
  - (2) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し
    - ア 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えた募集人数の在り方と広報の検討
    - イ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備計画に基づいた通信制の機能強化についての検討
    - ウ 単位修得のための環境整備（校務処理の安定的な運用）

充実した運営委員会を開催し、そのメンバーからなる将来構想検討チームを機能的に運営し各種課題解決を図り  
2021 年度には卒業予定生の卒業率 75%以上をめざす。（平成 30 年度 67%）  
教育振興基本計画、府立高等学校再編整備計画に基づいた通信制の機能強化について大阪府教育庁と協議を継続する。
- 2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上
  - (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成
  - (2) 生徒の実態に合ったレポートの作成と、スクーリング内容の精選、及び指導方法の改善
    - ア 学習の理解が深まり、達成感の得られるレポートの作成及び添削指導
    - イ レポート作成に役立つスクーリングの展開
    - ウ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングの充実
  - (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入
    - ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立
    - イ 文部科学省「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」を踏まえ、スクーリングに出席が困難な生徒のサポート体制を確立する。
    - ウ 学習意欲の高い生徒に対する学習支援策の検討・確立（新規）
  - (4) 人権尊重の教育の推進
    - ア 3年間を見通した人権教育計画の策定と実施
  - (5) 教職員研修の充実
    - ア 転任者研修、次世代桃通検討会議、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、本校の通信制教育のさらなる充実を図る。
    - イ 初任者等経験の少ない教職員の校外研修への積極的な参加や校内初任者研修等の充実を図る。

生徒向け学校教育自己診断におけるレポート、スクーリングに関する肯定的評価 90%程度を維持する。（H30 年度レポート 90%、スクーリング 92%）  
教職員向け学校教育自己診断における「学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定的評価を 2021 年度には 90%をめざす。（平成 30 年度 80%）
- 3 生徒支援と相談体制の強化・充実
  - (1) 生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談・懇談や相談会の実施並びに支援体制の充実
  - (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有を通して危機管理体制を強化する。
  - (3) 疾病や障がいについて勉強会や研修会を実施し、生徒理解を深める。
  - (4) 精神科医及び臨床心理士や S C 等との連携、福祉・医療等の外部機関との連携
 

生徒向け学校教育自己診断における「気軽に、質問や相談をすることができる先生がいる。」の肯定的評価を 2021 年度には 75%をめざす。（平成 30 年度 65%）  
生徒向け学校教育自己診断における「安心して学校生活が送れている。」の肯定的評価を 2021 年度には 95%をめざす。（平成 30 年度 86%）
- 4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実
  - (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施
  - (2) 進学希望者及び就職希望者に対する支援対策の充実及びそれに向けた教職員研修の実施
  - (3) 3年間を見据えた進路指導計画の策定
 

教職員向け学校教育自己診断における「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」の肯定的評価を 2021 年度には 80%をめざす。  
生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を 2021 年度には 75%をめざす。（平成 30 年度 69%）
- 5 情報発信・広報活動の充実及び防災教育の取組み
  - (1) 情報発信の充実
    - ア 学校 H P、携帯連絡メール（桃通メール）桃谷通信の内容の充実
    - イ インフォメーションディスプレイの活用
  - (2) 広報活動の充実
    - ア 学校説明会、学校 H P の充実
  - (3) 防災教育の取組み
    - ア 防災計画の策定及び実践的な避難訓練の実施
    - イ 安全で安心な学校づくり

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 11 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <p>生徒向け学校教育自己診断において「本校での学習が自分の思い通りに進んでいる。」の肯定率が、昨年度の 75%から今年度は 88%とアップした。一方、思い通りに進んでいない生徒に対してその原因を問うたところ「仕事や学校以外の活動で忙しかった」「やる気が出なかった」及び「体調不良」を多く挙げているが、「学習システムがわからなかった」</p>	<p>第 1 回（7 / 3）</p> <p>○在籍生徒（2028 名）のうち活動生徒（1703 名）以外の状況 はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休学者や連絡が取れない生徒が大半。</li> <li>・レポートを出さないまま引越してしまっただ生徒に対しての連絡手段がない。</li> </ul> <p>○志願者が多い 入学者枠は増やせないのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再編整備 計画 により 倍率の高い昼間部を拡充することになっている。</li> </ul>

府立桃谷高等学校（通信制の課程）

<p>という回答が続く。通信制という特殊な学習システムをいかに理解してもらおうかが課題であると考え、次年度に向け冊子『学習のしおり』を改訂中である。この冊子は生徒が自分で必要事項を記入していくと、年間の計画を立てたり自分の学習履歴を管理できるようになっており、より使いやすいものにしていく必要がある。</p> <p>また、今年度、ブログと桃通メールの連動により、より迅速に学習に関する情報を伝えることができるようになった。仕組みはできたので、次年度は内容の充実を図り、HPからも「学習システムの理解」が進むようにしたい。</p> <p>【生徒支援】</p> <p>生徒向け学校教育自己診断「気軽に質問や相談ができる先生がいる」の肯定的数値は68%である。一方、教員向け学校教育自己診断「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員にも相談することができる」の肯定率は93.5%である。このように教員と生徒の間に意識の差がみられる。次年度は多くの教員が相談業務に携われるような体制を構築し、さらに相談活動を活性化していきたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率は89.1%である。しかし、「職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」が32.6%と大きな開きがある。日常的に話題にしていることが、会議の場で反映されるよう組織の在り方や会議の持ち方等について検討が必要である。</p>	<p>○ICT等の活用を推進した方がよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急性のある連絡はHPやメールなどで行っている。スクーリングにおいては、プロジェクトの利用にとどまっている。</li> </ul> <p>第2回（11/26）</p> <p>○次世代 桃通検討会議の中で、ICTやブログ、ホームページに関する話題は議論されることはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある。経験年数の少ない教員の中で取り組みは進んでいる。生徒の中には携帯電話やスマートフォンを所持していない生徒もあり、学習や情報発信については、紙ベースでの配付を徹底することが前提としてある。</li> </ul> <p>○教育課程編成の方針にある「自己肯定感」を高める取り組みについて具体的な話をしてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず「本校の入試で評価Aの生徒が3年間で卒業できる教育課程」をめざす。評価Aの生徒というのは、様々な事情を抱え、通信制しか進学先がなかった生徒である。次に「生徒のニーズに直結した新しい科目」や「教科横断的な学校設定教科」を策定したい。特に新しい科目については、現段階で行なっている商業・工業科目の廃止等困難な課題があるため、今後も教育庁と検討を重ねていきたい。</li> </ul> <p>第3回（1/29）</p> <p>○学校はICTが遅れている。特に働き方改革の視点で行くと、効率が悪い。おそらく通信制は、ITとも相性が良いため、大胆に見直していくことが必要。大阪府の公立学校で唯一の通信制なのでこういうのも前衛的にやらしてほしいとか、こういう事例があるので試したい等要求して、みんなが楽になる方法を考える必要がある。</p> <p>○「働き方改革」が抜け落ちているとするなら、中期目標に入れた方がいい。どのあたりが該当するか。</p> <p>【回答】中期的目標の『通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立』の（1）の「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」というのを働き方改革の指標にしたい。働き方改革をからめた業務軽減、業務の分担の仕方を抜本的にみんなで考え直さないといけない。意見共有ができて、その意見が学校運営に反映されるような仕組みがないか、来年一年かけて考えていく。</p> <p>○カエルための会議（小室淑恵氏の著作より）。自分たちが早く帰るため、そしてチェンジするための会議、カエル会議をオススメする。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立	<p>(1) 将来構想の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化</p> <p>(2) 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えたシステムの見直し</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想検討チームの活動内容の充実を図る。</li> <li>・運営委員会を更に機能強化し、学校評価の実施を通して、業務の偏りや改革すべき諸課題について引き続き検討を進める。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立学校として府内唯一の通信制の生徒の実態を把握し、生徒・保護者のニーズの再確認及び通信制の機能強化について、引き続き校内議論を進め、大阪府教育庁に伝える。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程導入を見据えて、スクーリング出席管理システムの安定的な運用及び生徒ニーズに合った更なるシステム開発について、引き続き教育庁と協議する。</li> </ul>	<p>(1) 運営委員会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想検討チームの会議開催回数を維持する。（平成30年度21回）</li> <li>・運営委員会において学校評価を実施し、業務の偏りについて協議し、教員向け学校教育自己診断における「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価を70%以上とする。（H30年度61%）</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代桃通検討会議の開催回数（平成30年度5回）</li> <li>・生徒向け自己診断の回答率の向上（平成30年度17%）</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行システムの安定的な運用ができるようになったか。</li> <li>・生徒ニーズに合ったシステムの研究が進んだか。</li> </ul> <p>教育庁が取り組む新教育課程導入に向けたシステム開発において、通信制課程からの提案を1回以上行う。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想検討チーム会議 24回開催（ ）</li> <li>・肯定的評価はH30年度とほぼ同数の63%（ ）引き続き、業務の偏りや改革すべき諸課題の検討が必要。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題別に班分けを実施。班別協議・検討に重点を置くこと（時間をかけること）とし、全体会（報告・協議）は3回とした。回数は減少したが、次年度につながる検討が進んだ。（ ）</li> <li>・生徒の回答率は横ばい。通信制は回答が郵送になるため、周知方法が今後の課題である。（令和元年度17% ）</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による現行システムの構造解析も進み、修正作業を綿密に実施した結果、今年度は大きなトラブルは発生していない。（ ）</li> <li>・一度教育庁へ提案に行ったが、予算不足で断念。（ ）</li> </ul>

府立桃谷高等学校（通信制の課程）

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上</p>	<p>(1)基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成</p> <p>(2)生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善</p> <p>ア 学習の理解が深まり、達成感の得られるレポートの作成及び添削指導 イ レポート作成に役立つスクーリングの展開 ウ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングの充実</p> <p>(3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入 ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立 イ 文部科学省「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」を踏まえ、スクーリングへの出席が困難な生徒のサポート体制を確立 ウ 学習意欲の高い生徒に対する学習支援策の検討・確立（新規）</p> <p>(4) 人権尊重の教育の推進 ア 3年間を見通した人権教育計画の実施</p> <p>(5) 教職員研修の充実</p>	<p>(1) ・カリキュラム・マネジメントの視点から、次期学習指導要領を見据え、各教科における科目の開設等を検討する。</p> <p>(2) ア、イ ・学校教育自己診断結果やレポート添削評価、スクーリング評価の分析を通し、レポート作成、スクーリング内容、及び指導法の改善を行う ・教科会議の充実と教科・科目の取組み目標を明確にする。 ウ ・スクーリング見学月間の実施及び研究スクーリングの効果的な在り方について検討する。（新規）</p> <p>(3) ア ・生徒の基礎学力充実のための取組みの検討・実施（質問会・補習等） ・面接指導エリアの整備・充実 ・学習相談コーナーの整備・充実 イ ・文部科学省「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」に対する他の通信制高校の取組みを研究し、本校の在り方を検討する。 ウ ・学習意欲の高い生徒に対する学習支援策の検討・確立（新規）</p> <p>(4) ア ・HR等を活用し、すべての教育活動を通して、人を思いやる豊かな人間性を育む</p> <p>(5) ア 転任者研修、次世代桃通検討会議、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、さらなる充実を図る。 イ 初任者等経験の少ない教職員の校外研修への積極的な参加や校内初任者研修等の充実を図る。</p>	<p>(1) ・教育課程検討会の開催回数（平成30年度2回）</p> <p>(2) ア、イ ・レポート添削評価3.1以上の教員、スクーリング評価3.3以上の教員がそれぞれ88%以上という状態を維持する。（H30年度レポート添削評価88%、スクーリング評価85%） ・学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価それぞれ90%程度に維持する。（H30年度レポート90%、スクーリング92%） ウ ・スクーリング見学月間の実施及び研究スクーリングの効果的な在り方について見直しできたか。（新規）</p> <p>(3) ア ・講習会・質問会等への参加生徒数 ・教員向け自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている」の肯定率の向上（H30年度78%） イ ・文部科学省「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」を踏まえ、本校における生徒のサポート体制について検討。 ウ ・学習意欲の高い生徒に対する学習支援策を作成できたか。（新規）</p> <p>(4) ア、イ ・3年間の人権HR計画実施 ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率向上（平成30年度72%）</p> <p>(5) ア 転任者研修、次世代桃通検討会議、人権研修のそれぞれの開催回数（平成30年度 転任者研修4回、次世代桃通検討会議5回、人権研修2回） イ 校外研修の報告回数、校内初任者研修・「若桃塾」の開催回数（平成30年度 校外研修の報告回数11回、校内初任者研修23回、「若桃塾」8回）</p>	<p>(1) ・8回開催（ ） ・全教員対象の会議は2回実施した。</p> <p>(2) ア、イ ・授業アンケートの結果、レポート添削評価及びスクーリングの各評価は、それぞれ94%、89%（ ） ・学校教育自己診断の結果、レポート添削及びスクーリングの各肯定的評価はいずれも95%に向上（ ） ウ ・指導教諭を中心に抜本的な見直しを行い、研究スクーリング決定者会議を設置し、通信制の経験年数別グルーピングをし、役割分担（研究スクーリング実施者、参観者）や、研究協議を実施した。（ ）</p> <p>(3) ・質問会参加396人（H30年度379人）（ ） ・個別の補習も含め実施（国語30名、英語20名、数学20名、理科8名、保体5名、家庭2名）「個に応じた学習指導の工夫」の肯定率増加80%（ ） イ ・未実施。本校の教育活動がこのガイドラインに沿ったものかどうかについて、次年度点検する必要がある。（ ） ウ ・学習支援として講習会を実施 国語3名、英語8名 数学15名が受講 ・学校教育自己診断結果「学習意欲の高い生徒に対する指導」の肯定率61% ・今後、「若桃塾」やスクーリング研究協議等を活用するなど継続して支援策の検討を行う。（ ）</p> <p>(4) ・3年間の人権HR計画に基づき実施（人権HR3回、人権研修3回）。年間計画とは別に拉致問題を取り上げた合同人権HR1回実施。（ ） ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率77%（ ）</p> <p>(5) ア ・転任者研修 7回 ・次世代桃通検討会議3回 ・人権研修 支援の必要な生徒情報交換会2回、「子どもの権利条約」について外部講師を招いた研修を1回実施。（ ） イ ・校外研修報告14回 ・初任者がいないため校内初任者研修0回 ・若桃塾2回（担任業務について1回、退職予定の教員を囲む会1回）（ ）</p>

## 府立桃谷高等学校（通信制の課程）

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 生徒支援と相談体制の強化・充実	<p>(1) 生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談・懇談や相談会の実施及び支援体制の充実</p> <p>(2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有を通して危機管理体制を強化する。</p> <p>(3) 疾病や障がいについて勉強会や研修会を実施し、生徒理解を深める。</p> <p>(4) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の外部機関との連携</p>	<p>(1) 支援を必要とする生徒を抽出し、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携して組織的な支援を充実させる。 ・生徒が質問・相談しやすい職員室、面接指導室、相談室の環境整備 ・再編整備計画の実施に伴うSC、SSW、CCの導入に向けた校内相談体制の構築</p> <p>(2) 健康調査の結果、必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する</p> <p>(3) 第1、第2範囲当初（5、10月）に研修会を開催、その他関連する勉強会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かす。</p> <p>(4) 本校生を多く担当している専門医・SCや保護者と生徒の心身に重点を置いた連携を強化することで生徒支援を充実する。</p>	<p>(1) ・支援生徒の学習活動の進行状況 ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」（H30年度87%）「気軽に相談できる先生がいる」（H30年度65%）の肯定率をそれぞれ向上させる。</p> <p>(2)(3) 研修・勉強会等実施内容 ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率の向上（H30年度91%）</p> <p>(4) 面談、相談回数 ケースワーク会議の実施回数 （H30年度ケース会議20回、相談回数96回、SC面談回数68回、SSW面談回数16回）</p>	<p>(1) ・個別の支援計画を立てている生徒44名中30名については学習が順調に進んだ。 ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」（令和元年度92%）「気軽に相談できる先生がいる」（令和元年度67%）の肯定率をそれぞれ向上。（ ）</p> <p>(2)(3) ・SSW研修1回 ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率向上（令和元年度92%）（ ）</p> <p>(4) ・ケース会議15回、相談回数85回、SC面談39回、SSW面談36回（ ） SC面談後にミニケース会議を実施した。SSWには居場所を失った卒業生の対応までしてもらった。今後、支援の必要な生徒には在学中から地域につなげる取組みが必要。</p>
4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実	<p>(1) 生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施</p> <p>(2) 進学希望者・就職希望者に対する支援対策の充実</p> <p>(3) 3年間を見据えた進路指導計画の策定</p>	<p>(1) ・A'ワーク創造館と連携を行い、キャリア教育を行う。（社会に出たときに必要な人間関係形成能力を身に付けるための講座を開設する。） ・学校全体で進路指導を実施するうえで教員向け進路指導説明会及び進路指導研修会の充実。</p> <p>(2) ・進学希望者対象分野別説明会等の実施 ・進学希望者対象奨学金説明会等の実施 ・保護者向け進路説明会の開催 ・就職希望者対象分野別説明会等の実施 ・求人票閲覧会の開催</p> <p>(3) ・HR並びに総合的な学習の時間を活用し、進路について計画的な指導を実施</p>	<p>(1) ・キャリア前教育として実施する講座開設時間と講座への参加者数 （H30年度70時間 178名参加） ・教員の外部研修の参加人数（H30年度7名）</p> <p>(2) ・講習、進学関係説明会への参加者数 （H30年度参加者数250名） ・保護者向け進路説明会の開催と参加者数 （H30年度25名） ・就職関係説明会（H30年度参加者数416名） ・就職希望者内定率（H30年度100%）</p> <p>(3) ・進路指導計画の策定ができたか。</p>	<p>(1) ・90時間開設、参加のべ280名参加（ ） ・教員の参加のべ8名参加（ ）</p> <p>(2) ・進学説明会の参加のべ275名参加（ ） ・保護者向け説明会の参加30名参加（ ） ・就職説明会、就職指導の参加のべ780名参加（ ） ・就職内定率100%（ ）</p> <p>(3) ・策定中（ ）現在、A'ワーク創造館と連携し、パイターンを検討中。</p>

## 府立桃谷高等学校（通信制の課程）

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
5 情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組	<p>(1)情報発信の充実 ア HP、携帯連絡メール（桃通メール）、桃谷通信の内容の充実</p> <p>イ インフォメーションディスプレイの活用</p> <p>(2)広報活動の充実 ア 学校説明会、学校HPの充実</p> <p>(3)防災教育の取組み ア 実践的な避難訓練の実施</p> <p>イ 安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPに設けた全教科のページについて、内容の充実を図る。</li> <li>・携帯連絡メール（桃通メール）を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォメーションディスプレイの有効活用</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数での説明会実施のため、統一された内容の説明を行えるよう、説明会用スライド及び学校紹介用DVDを改善・充実する。</li> <li>・府民が本校の通信制教育を理解できるHPづくり</li> </ul> <p>(3) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒避難訓練及び教職員向け避難訓練の実施</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科のページ更新率 100%（H30年度 100%）</li> <li>・携帯連絡メール（桃通メール）への登録件数と発信回数（H30年度桃通メール登録件数 657、発信回数 41回）</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォメーションディスプレイの更新頻度（H30年度毎日更新）</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の解り易さ」肯定的評価の向上（H30年度 89%）</li> <li>・HPへの年間アクセス数（H30年度 105,217件）</li> </ul> <p>(3) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け学校教育自己診断「災害等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができている」の向上（H30年度 55%）</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科のページ更新 100%（14/14教科）（ ）</li> <li>・桃通登録者 635名（ ）</li> <li>・桃通メール配信回数 33回（ ）</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォメーションディスプレイを毎日更新（ ）</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の解り易さ」肯定的評価の向上（令和元年度 96%）（ ）</li> <li>・HPへの年間アクセス数（令和元年度 181,441件）（ ）</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教室に非常灯を設置したことにより、教員向け学校自己診断「災害等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができている」の肯定率が向上した。（令和元年度 65%）（ ）</li> </ul>